

2022年2月15日発行

22-07号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**なにに向かって**

連日、北京オリンピックのニュースが聞こえてきます。その中でも男子フィギュアスケートの羽生結弦選手への注目はとても高いものです。メダルは逃したのですが、4回転半アクセルに挑戦した姿はすばらしいものでした。取材が多すぎるということで、2月14日に特別に会見が行われました。そのときの、羽生選手のことばや態度は、競技だけではなく、人間的にもすばらしい人だということを現していたと言われます。

「王者として守るのではなく、王者として攻める。羽生選手にとって挑戦とは何でしょうか。」という質問に対して、自分だけが特別なのではないこと、みんなが生活の中で何かしら挑戦をしていると思うと言っています。羽生選手の場合は目に見えることで、報道されるだけであり、家庭を守るために犠牲を払っている人も挑戦しているので、すべてが挑戦だと思うということです。そして、「僕も挑戦を大事にしてここまで来ましたけど、みなさんもちょっとでも良いから、あ、自分は挑戦してたんだなとか、あ、それって羽生結弦はこんなに褒めてもらえてるけど、実は褒められることなのかなって、自分のことを認められるきっかけになっていたらうれしいなって、僕は思います」と話をしていました。（2月14日朝日新聞デジタル＜羽生結弦、挑戦は「特別なことではない」　重圧を背負って見えた景色＞より）

たしかに、すべての人は、なにかに向かって進んでいます。あきらめたと言う人も、なにかに向かって進んでいたのがうまくいかなくてあきらめたのであって、最初からなにもなかったわけではありません。羽生選手が言う、「みんな挑戦している」のは確かでしょう。自分で意識しなくても、他の人から言われてしているとしても、なにかに向かって進んでいます。しかし、どこに向かって、なにを手に入れようと挑戦するのでしょうか。羽生選手のように4回転半アクセルを飛ぶことに向かって挑戦しているとしたら、飛んだら、そのあとはどうするのでしょう。また、飛べなかったら、どうするのでしょう。なにかに挑戦し続けるのは大切ですが、確実に来ることをあらかじめ知らないなら、挑戦すること自体で終わったり、途中で疲れたりします。また、挑戦した目的が手に入ったら、その先はどうしたら良いのか、目標を失うことも多くあります。

絶対に訪れることになっているゴールをあらかじめ知り、そのゴールのために、きょうは過程であり、その過程の中での挑戦ならば、どんなことがあっても安心できます。たとえ失敗してもその過程にすぎないからです。絶対に訪れるゴール、それを知ることはできるのでしょうか。決勝点がどこかわからないような走り方をせずに、空を打つような拳闘もしなくて良い秘訣について、お知らせしたいことがあるのです。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください